

## わが職場

創業者である現社長伏見豊の祖父豊次は、大正十二年、個人経営での伏見製薬所を丸亀市金倉町（現中津町）に興しました。当初は芒硝、塩酸、塩化バリウムの製造販売を行い、数年後に硫化ソーダの製造も開始し、以後の長い間、芒硝、塩化バリウム、硫化ソーダの3商品が当社の発展を支えていくこととなりました。

現在、X線造影剤として医療現場で活躍している主要な商品の一つに「硫酸バリウム」がありますが、塩化バリウムを自社生産していたことが「硫酸バリウム」の生産に繋がっていきました。

硫酸バリウムの製造を開始した当社にその後、大きなチャンスが訪れ、X線診断に画期的な精度をもたらす「二重造影法」の登場や、その「二重造影法」が国際消化器学会を通じて世界に紹介され、国際的に高い評価を受けたこと、「胃集検車」の普及等により急速に売上が伸び、これを期に一気に

トップに躍り出ました。また、老人保健法施行による集団検診の促進政策により需要が拡大し、硫酸バリウム商品「バリトゲン」は今や、経営を支える主力商品へと成長したのです。

硫酸バリウムや造影補助剤を製造する昭和町工場（GMP対応）を新設した際は、最新鋭化と高品質を追及して、ユーザーからのあらゆるニーズに即応しています。

工業薬品については、受託合成用のマルチプラント（GMP対応）を設置し、大口案件の受注を確保しています。

機能性材料の分野では、ロール、スティックの専用製造工場を新設、またホスファゼン誘導体を高純度で量産する技術を確立させ、高機能難燃剤「ラビトル」という自社ブランドを発売開始しました。

明確な目的を持ち、技術力・開発力を基盤にこれまでの「待ち」の姿勢から「攻め」の姿勢へシフトし、当社は次のような品質方針を掲げています。

『個人が己をプロフェッショナルに高めることによってのみ、顧客の満足と組織の継続的發展を勝ち得ることが出来る。そのためにも衆知を集め、研鑽しよう。』

企業の存在価値は社員一人ひとりの戦力の合計、すなわち総合力です。これが当社及び販売会社である伏見製薬株式会社を含めた企業体の全てであり、お客様や信用を大切にしながら常に社内の戦力アップを心がけています。

また、当社は化学工場でありますので、定期的には火災避難訓練を実施し、AED設置を社内所周知、さらに毎月開く安全衛生委員会では各部署のヒヤリハット、安全提案、改善事項、KYT活動を報告し合って、無事故・無災害活動にも力を入れています。

中規模製薬会社なればこそその軽快なフットワークとネットワークを基本に、伏見製薬所はこれからも前進してまいります。

株式会社伏見製薬所

総務課 河崎 大作